

剛断を以て
格別の改革を!!

無所属新人 (226才・宮崎)

やすい息軒

—安井息軒の政策論—

2025年1月12日(日)~3月23日(日)

- 会場 / 宮崎市安井息軒記念館 特別展示室
- 開館時間 / 午前9時~午後4時30分 (最終入館は午後4時)
- 休館日 / 月曜日 (祝日の場合は開館)・祝日の翌日 (土日除く)

主催 宮崎市安井息軒記念館 NPO 法人安井息軒顕彰会
〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納甲3378-1 TEL:0985-84-0234

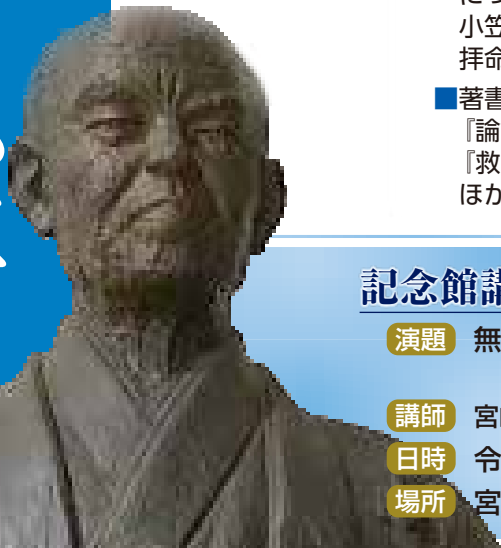


やすい息軒

無所属新人 (226才)



総じて学問は
ほみんあんせい
輔民安世の
道に候ふ



やすい息軒 プロフィール

- 本名 安井衡(やすいこう)、字は仲平。寛政11年[1799]1月1日、飢肥藩清武郷中野(宮崎市清武町中野)に生る。
- 父 安井滄洲に庭訓を受け、大阪の篠崎小竹、江戸の古賀侗庵、松崎慊堂に師事、昌平坂学問所に入寮。
- 飢肥藩郷校明教堂助教、同藩校振徳堂助教、佐倉藩藩校成徳書院講師、昌平坂学問所教授を歴任。三計塾を開き、後進育成に取り組む。
- 飢肥藩用人として藩政に参与。幕政について水戸斉昭や老中の水野忠精・小笠原長行の下問に応える。埴代官拜命。
- 著書に『管子纂註』『左伝輯釈』『論語集説』『弁妄』『読書余適』『救急或問』『時務一隅』『息軒遺稿』ほか多数。

記念館講座のお知らせ

- 演題 無所属新人 安井 息軒
—安井息軒の政策論—
- 講師 宮崎大学特別准教授 青山 大介
- 日時 令和7年2月8日(土)
- 場所 宮崎市安井息軒記念館 研修室

本企画展の趣旨

安井息軒は宮崎が生んだ「日本一之儒者」[黄遵憲・読書余適序]です。

儒者とは、研究者・教育者・政治家を兼ねた存在です。これまでに当館は息軒の研究者としての側面を令和4年度「明治の息軒」展で、**教育者としての側面**を令和5年度「息軒の娘」展でご紹介しました。今回、政治家としての側面を取り上げるにあたり、次のようなテーマを設定しました。

もし安井息軒が現代の選挙に立候補したら…

幕末維新时期という先行き不透明な時代。藩や幕府の下問に応えた息軒の提言には、意外にも、現代社会が直面している問題に関わるものがいくつもあります。もちろん今の価値観にそぐわない表現もありますが、息軒の普遍的な問題意識から学べるものは少なくありません。

宮崎市安井息軒記念館

物価高騰対策

物価沸騰は止め難し。必用の品 国内に産して、他に求めずして足るように心懸くべし

地域経済振興

邦内を講究せば、なお伏利なきにあらず

人口流出対策

男女とも早く婚せしむべし

共生社会推進

民・夷を一にして、之を教育す

貧困家庭支援

人民一人助かりても、莫大のご奉公

行政の簡素化

一害を除くは、一利を生むにしかず



推薦人の言葉

昌平坂学問所教授 掛川藩藩儒 しょのや どういん 塩谷 宕陰

息軒氏は小柄ですが、知識量と思考力が並外れていて、普通の人には思いつかないアイデアを出してきます。数字にも強く、政策を論じればすべてメリット・デメリット、コスト・リターンの計算ができていて、現実的です。今時の武士とは違います。『送安井仲平東遊序』

ひらべ きょうなん 飢肥藩家老 平部 嶠南

飢肥藩の二期作や養蚕業は、息軒先生のお力で始まったものです。

六隣荘日誌



『時務一隅』

如蘭社・大正2年刊 諸岩則俊氏所蔵

息軒が文久2年[1862]に老中水野忠精の下問に提出した幕政改革案。



『救急或問』

成章堂・明治35年刊 慶応大学ス道文庫所蔵

息軒が安政の頃に飢肥藩に提言した藩政改革案をまとめたものとされる。



『上明山公書』

元治1年[1864]写 東京大学南葵文庫所蔵

息軒が元治1年[1864]に謹慎中の老中小笠原長行に上書した外交策。

明治政府で活躍した教え子たち



陸奥 宗光

井上 毅



三好 退蔵

谷 干城